

3. ワークショップの記録

1) 主な提案(市民のアイデア)と、その対応(行政からの回答)について

提案1 ひと・かわ・まちの連携の再構築

主な提案	対応について
<p>①多様な連携・参画の仕組づくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が主体となることができることがある。その際、合意形成を自ら実践することが必要である。 <p>②協働の維持管理、市民への周知について</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理する人・体制が高齢化・縮小している。 開運橋下流右岸の花壇に雑草が繁茂→管理する組織が必要。 周辺住民への働きかけなどの活動の仕組みづくりが必要。 川への排雪は、道路の通行環境を維持していく上で必要があるが、雪にゴミ等が混入し川へ捨てられないよう、排雪の方法について啓蒙していく必要がある。 <p>③水辺・水面利用について</p> <ul style="list-style-type: none"> 寄石を使って淀み、溜まりの空間を作る。また、その空間を船着場として利用する。 乗降時にカヌーを止めるのが大変である。 旭橋上流に船をつけられる湾処(ワンド)を整備してはどうか。→明治橋下流、新山河岸との連携。 	<p>→川づくりの実践に向け、かわまち勉強会において検討を考えています(市・国・市民)</p> <p>→維持管理のあり方について、かわまち勉強会において検討を考えていきます。(市・国・市民)</p> <p>→河川環境を保全するため、排雪時のマナーについて、市民への周知を図っていきます。(市・国・市民)</p> <p>→船着場、ワンドについては、河川利用・管理上の必要性について確認しながら進めていきます。(市・国)</p>

提案2 かわとまちの自然環境の保全・活用

主な提案	対応について
<p>④かわを学べる水辺空間づくり (中津川 山賀橋下流付近)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に滞筋が固定化し、水深が深いため危険な箇所が多い。 橋の前後に浅瀬を作る(遊び場になる)。 防災教育(洪水)にも役立てたい。 洪水時の防災教育に限らず、広く「安全教育」を図っていく必要がある。 <p>(中津川 浅岸橋付近)</p> <ul style="list-style-type: none"> 浅岸橋が狭い。サケの観察場所があればよい。 	<p>→中津川橋周辺の維持・管理については関係者と調整を図りながら進めていきます(市・国・市民)</p> <p>→河道特性を確認しながら、安全な水辺の創出について進めていきます。(国) その際、魚類等の河川環境維持、保全に配慮しながら進めていきます。(国)</p> <p>→浅岸橋の拡幅は、現在実施している「橋梁点検業務委託」の結果を勘案し、整備時期等について検討していきます。(市)</p>

主な提案	対応について
<p>⑤河道内樹林の適正な管理</p> <p>(中津川)</p> <ul style="list-style-type: none"> 過去の状況を見ると、中州を撤去しても元に戻るのではないかと。樹木管理でよいのではないかと。 中津川橋付近について、半分くらい樹木を切っても良いのでは。 中津川橋上流樹林は全て撤去しないほうが良い。景観、生物生息に役立っている。 中津川橋下流左岸のビオトープ化。水路が残っており、その保全が必要である。 富士見橋上流右岸の樹木は、ある程度残したほうがよい。東大橋下流右岸の桜並木は残すべき。 上の橋上流は、カキツバタ園まで中州を撤去したほうが良い。橋の中央に流れるように。 浅岸橋上流の中州を撤去しても鮭の産卵場所には影響がないだろう。現在も上流で産卵している。 <p>(北上川)</p> <ul style="list-style-type: none"> 夕顔瀬橋の中州は明治橋下流の中州と同様文化財なので残しつつ、樹木は撤去してもよい。 三川合流部の樹木、オオルリの渡りに必要である。多少残してほしい。 北上川公園の水際に樹木が繁茂し、川が見えない。 <p>⑥砂州の管理</p> <p>(中津川 上の橋上流)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中州の玉石を川に戻した方がよい。川底を水平に、川幅を広げ浅瀬をつくる。 上の橋上流について、中洲の撤去が望ましい。 カジカの生息地だった(形成する)。 勿忘草、中津川の特徴的な植物であり、その維持・保全について明記する。 <p>⑦河道内の植栽・管理体制づくり</p> <p>(中津川 カキツバタ園の管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> 上の橋上流は、川が深くなって危ない。 管理する方々が高齢化している。 カキツバタは、市の花であり、観光名所ともなっていることから、市民の協力体制が必要であることについて提言したい。 <p>(中津川 水芭蕉)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状の水芭蕉は維持、保全する。 	<p>→河道内樹林は、中津川・北上川にふさわしい樹種、景観面、自然環境に配慮した樹木のあり方について検討し、その考え方に合わせて樹木管理を進めます。(国・市民)</p> <p>→河道内樹林は、中津川・北上川にふさわしい樹種、景観面、自然環境に配慮した樹木のあり方について検討し、その考え方に合わせて樹木管理を進めます。(国)</p> <p>→中州の撤去は、治水安全上必要な箇所について、出水時での被害状況や、過去の河川形態やその変遷を確認し、また自然環境に配慮しながら進めていきます。(国)</p> <p>→カキツバタの維持管理のあり方について、かわまち勉強会において検討を考えています(市・国・市民)</p>

主な提案	対応について
<p>(北上川 開運橋花壇)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開運橋花壇は盛岡の表玄関。 ・ 法面の土が流出し、石積みの芝桜が被害を受けている。偽木などにより土留めしてほしい。 ・ 階段の手すりの老朽化。 ・ 案1：現在遊歩道横も擬木で施工しており、増水時にも効果を発揮しているため構造は同じ物の方が良い。案2に比べてメンテが少ない。案3の上部管理スペースはスペース上無理と思う。 ・ 将来的なメンテ、下段との調和、通路スペースに配慮する必要がある。 ・ 花壇の維持補修には「シバザクラ」を守る目的があることを考慮してほしい。 	<p>→開運橋花壇の維持補修については、市民と行政の間で改善策について話し合いながら進めていきます。(市・国・市民)</p>

提案3 かわとまちの歴史・景観資源の保全・活用

主な提案	対応について
<p>⑧かわ・まちの歴史を活かした水辺づくり</p> <p>(北上川 新築地グリーンプロット)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グリーンプロット前の樹木、川の景色が見える程度の伐採は必要。 ・ 緑地からの眺めを確保するため、柳の木を伐採してほしい。 ・ 北上川の流路を変えた新築地を示せないか。 ・ 車庫が目立ち、見苦しい。 <p>(北上川 材木町裏の石垣)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 材木町裏の石垣は、歴史的構造物である。 ・ 歴史のある石垣を損傷するおそれがある樹木を除根してほしい。 <p>(北上川 夕顔瀬橋付近)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 御番所があり、盛岡城下町への玄関口だった場所である。樹木は伐採し、中洲は残す必要がある。 <p>(中津川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中津川の歌碑(25もある)がわかるような案内板を設ける。 	<p>→既存施設利活用と生物生息環境の双方に配慮し、合意形成を図りながら進めていきます。(国)</p> <p>→サインシステム計画の中で、検討していきます。(市・国)</p> <p>→材木町裏の石垣は、官民境界が明確でないことから、市民と行政の間で調整を図っていきます。(国・市民)</p>

提案4 かわとまちを結ぶ連携空間の創出

主な提案	対応について
<p>⑨水辺の遊歩道の整備</p> <p>(中津川 右岸)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊歩道の延伸・整備は賛成。延伸区間の終点(中津川橋上流)の階段を整備。 浅岸橋下流右岸に遊歩道の延伸整備が必要。 中津川橋より上流浅岸橋までは、今後の検討区間として整備することを望む。 <p>(中津川 左岸)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山賀橋から浅岸橋に至る左岸遊歩道を新設・整備する(市道に歩道がない)。 中津川橋上流から浅岸橋までは、今後の検討区間として整備することを望む。 毘沙門橋下流においても今後の検討区間として整備を望むが、中州の撤去と合わせて検討が必要である。 <p>(北上川 旭橋左岸付近)</p> <ul style="list-style-type: none"> 旭橋の上下流では、簡易通路でも良いのでアクセスを良くしてほしい。 現状ではアップダウンが多いので、よりスムーズに移動できれば良い。 <p>(北上川 雫石川への回遊性)</p> <ul style="list-style-type: none"> 北上川不來方橋下流の右岸側にも遊歩道がほしい。 雫石川への遊歩道を設置してほしい。 <p>(全区間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊歩道にベンチ(石)を置いてほしい。 水溜りになりやすいので、その配慮が必要である。 開運橋花壇の歩道に水が留まりやすい(排水問題)。 春先、遊歩道の除雪をお願いしたい。 <p>⑩まちとかわを結ぶアクセス整備</p> <p>(北上川 材木町へのアクセス)</p> <ul style="list-style-type: none"> 材木町裏へのアクセスは場所を決めて(全部は無理なので)整備して欲しい。 商店街駐車場を川とまちのアクセスに活用する。 私有地がアクセス道路になるので、まず地元の方の賛意が前提条件になる(回遊性)。 材木町商店街からは川への降口がわからない。 商店街駐車場には、川への降口の目印として木のゲートはあるが、サインの設置があればよい。 階段の歴史を説明するものがあるとよい。 階段が急で、手摺がなく危険である。 	<p>→右岸遊歩道は、中津川橋まで(約200m)延伸するとともに、階段の改良について検討します。中津川橋より上流(約300m)は、中津川橋までの整備後の整備検討区間とします。(市・国)</p> <p>→左岸遊歩道は、山賀橋下流から上流区間(約600m)の延伸、階段の新設を図ります。(市・国)</p> <p>→すでに旭橋下のアクセスは確保されています。新たに整備することの必要性及び可能性について確認しながら進めていきます。(国)</p> <p>→雫石川への回遊性向上は、必要性を確認しながら検討していきます。(市・国)</p> <p>→ベンチの設置、遊歩道の維持管理について、市民と調整を図りながら検討していきます。(市)</p> <p>→管理用通路の維持管理として対応可能な排水方法について占有者である盛岡市と調整しながら進めていきます(市・国)</p> <p>→材木町と川とのアクセスについては、既設階段を基本に、回遊性の向上を図ります。地域の方々と連携して、場所の選定を行ない、可能性を判断していきます。(市・国・市民)</p> <p>→手すり設置については、盛岡市と調整しながら、進めていきます(市・国)</p> <p>→民地に生育している樹木の扱いについては、地権者と調整を図りながら進めていきます(国・市民)</p>

主な提案	対応について
<p>⑪河川利用拠点の整備</p> <p>(中津川 富士見橋上流右岸の高水敷利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グランドを整備してほしい(凸凹を整地する)。 ・ グランド整備はよい。ある程度利用者も見込まれるのではないか。具体的な検討を進めるべきである。 ・ ドッグランとしての利用を認めることが必要ではないか(ゾーン、時間、みんなで決める)。 ・ 駐車場がなく、利用者が近所の人に限定される。 ・ 利用方法として、バーベキュー、ピオトープ、親水公園、環境教育利用、桜並木などが考えられる。 ・ 学校との連携、タイアップも考えられる。 <p>(北上川公園)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 路面がでこぼこで、補修が必要。 ・ 冬季(少なくとも春前に)除雪をしてほしい。 ・ 三川合流地点を示す案内サイン。 ・ 東屋のトイレや水飲み場、ベンチを設置してほしい。 <p>(北上川 一時的な高水敷利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対岸の駐車場はぜひ進めて欲しい。 ・ 実現の際は、高水敷の臨時駐車場について、時間を決めて管理する必要がある(土曜の14~19時とか) <p>⑫サインシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サインは、北上川と連携することが望ましい。階段等の昇降場所に必要である。 ・ サイン整備は回遊性補完上、良いことである。 ・ 散策路、アクセスの場所、観光名所がわかる統一されたサイン(看板)が必要。 ・ 現在地、サイン周辺の情報(材木町、ビュースポット)を示してほしい。 ・ どこまで何分、何kmなどを示し、歩きたい・歩きやすいように(ウォーキングによい)。 ・ 中津川の25の歌碑がわかるような案内板を設ける。 ・ 川沿いから一本町に入った通りにもサインを設置すれば、上手く誘導できる。 ・ 訪れた人に文化や歴史空間を案内する仕組み(ガイド等)が必要。 ・ QRコードで情報提供をしてはどうか。 ・ スタンプラリーや歌碑など歩くしかけが必要。 	<p>→整備の内容(必要な施設、規模)、利用の方法、及び維持管理の方向性について、市民と調整を図りながら検討を進めます。(市・市民)</p> <p>→管理用通路で利用上必要な維持補修、冬季の管理方法について盛岡市と調整しながら進めていきます(市・国)</p> <p>→トイレ、水のみ場、ベンチについては、市民と調整を図りながら検討してきます。(市)</p> <p>→市民間の要望の統一を前提に、検討を進めていきます。(市・市民)</p> <p>→中津川と北上川の来訪者を対象としたサインシステム計画を立案し、必要に応じてサインの整備を進めていきます。(市・国)</p>

2) ワークショップ開催概要

<第1回ワークショップ：目標共有・情報共有>

日 時：平成23年9月6日（火）18：30～21：00

場 所：盛岡市中央公民館 大会議室

参加者：18名（3グループ）

- テーマ：①施策の方向性について、具体的にどうなっていると、もっと良い水辺になると
思いますか？
②提示された施策の他にアイデアがありますか？また、行動するために何が必
要ですか？



第1回ワークショップの開催状況

<第2回ワークショップ：現地確認>

日 時：平成23年9月17日（土）13：30～16：30

場 所：盛岡市勤労福祉会館 会議室

参加者：14名（2グループ）

- テーマ：①現地調査により方向性を確認する
②既施工箇所の確認する



第2回ワークショップの開催状況

<第3回ワークショップ：施策案の検討>

日 時：平成23年10月18日（火）18：30～20：45

場 所：盛岡市中央公民館 大会議室

参加者：16名（2グループ）

- テーマ：①検討案について、具体的にどうなっていると、もっと良い水辺になると思いま
すか？
②検討案を実現するために、また行動するために、何が必要ですか？



第3回ワークショップの開催状況

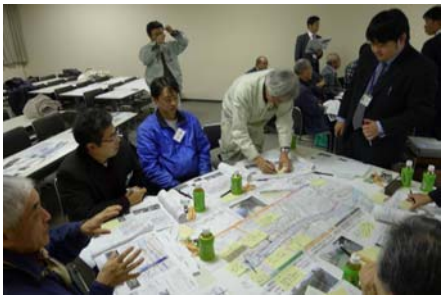
<第4回ワークショップ：施策案の特定>

日時：平成23年11月24日（木）18：30～20：45

場所：盛岡市中央公民館 中会議室

参加者：13名（2グループ）

テーマ：①前回までの検討案（主に整備）について
②市民からの提案書（素案）について



第4回ワークショップの開催状況

<第5回ワークショップ：計画とりまとめ>

日時：平成23年12月20日（火）18：30～19：30

場所：盛岡市中央公民館 中会議室

参加者：9名（1グループ）

テーマ：①「市民からの提案書（案）」について



第5回ワークショップの開催状況

3) ワークショップ議事録

<第1回ワークショップ>

1. グループ討議の概要

グループ討議では、主に以下の議題について意見を出し、話し合いました。

『施策の方向性について、具体的にどうなっていると、もっと良い水辺になると思いますか?』

『提示された施策の他にアイデアがありますか?また、行動するために、何が必要ですか?』

●中津川グループ① (1・2班)

(1) 水辺の遊歩道の整備

- ・浅岸橋の下がサケの産卵場になっているので、浅岸橋を架け替え(プロムナード)れば、観光客は安全にサケの産卵を見ることができる。
- ・遊歩道を広げたことは良いこと。自転車通行が可能になればよい。
- ・下の橋～毘沙門橋の遊歩道について、中州の土砂を護岸側に寄せて(コンクリートを出さないように)、必要であれば遊歩道を整備すればよい。
- ・遊歩道が水溜りになるので、高くしてほしい。また、除雪もしてほしい。

(2) まちとかわとを結ぶアクセス整備

- ・アクセスはだいたいできている。

(3) サインシステムの設置

- ・遊歩道、アクセスの場所に観光名所がわかる統一されたサイン(看板)が必要ではないか。
- ・岩手山の眺め(観光)を活かした案内が必要ではないか。

(4) 河道内植性の適正な管理

○中州の撤去

- ・浅岸橋、上の橋上流の中州の撤去が必要。
- ・中津橋付近の河道内樹林は、川幅が広いので可能な範囲で保全すべきではないか。
- ・中州の撤去は色々な議論がある。自然保護、野鳥保護を考えている方々と話をする必要がある。

○川の植生

- ・(花粉症対策として)牧草を減らしたい。どのように川の植生を維持管理すれば良いか検討が必要ではないか。
- ・実際に草刈をしているが、時間・労力に限界がある。

(5) 川を学べる水辺空間づくり

○学習の場づくり

- ・安心して遊べる環境づくりが必要。
- ・富士見橋(カキツバタ付近)で子どもが川に入れるようにしたい。水辺に安全に降りられるアプローチが必要。

- ・川に浅瀬があった方が良い（床固めなどの配置など）。
- ・より多くの子どもたちに川で遊んでもらうために、川の整備は十分だろうか。遊ぶ場所はあるか。

○生き物の生息・生育環境

- ・生き物を増やすことが重要。生き物がいないと学習にならない。
- ・子どもが川で遊ぶことが、生き物の生息場を作ることにつながる。

○その他

- ・子どもたちにライフジャケットを用意できないか。
- ・修学旅行生との交流の場づくりが必要ではないか。
- ・川を通じて防災の意識を高めることも必要。

(6) その他

○中津川橋の広場

- ・中津川橋付近（下流側左岸）、広い草地になっており、ワンドや小水路を形成することによって、雑魚の生息空間としてビオトープ化することが考えられる。

○富士見橋上流右岸の広場

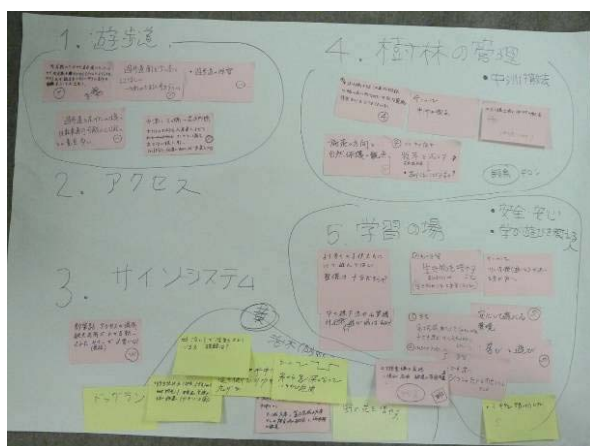
- ・富士見橋上流右岸は中津川の中でも広い高水敷がある。一部整地してサッカーなどができるように。

○馬車の運行

- ・城跡公園から勇往公民館まで馬を放牧し、馬車の運行をしてほしい。

○ドッグラン

- ・ドッグランがあれば良い。



中津川グループのグループワークの成果

●北上川グループ①（3班）

（1）水辺の遊歩道整備

- ・ 旭橋の下に遊歩道を通し、材木町方面と開運橋をつないでほしい。
- ・ 夕顔橋と旭橋の間の右岸側に、遊歩道を整備してほしい。また、不来方橋付近の右岸側にも遊歩道を整備してほしい。
- ・ 北上川公園付近は川から奥まった場所にしか遊歩道がないので、水辺に遊歩道を整備してほしい。

（2）まちと川を結ぶアクセス整備

- ・ 開運橋上流左岸の階段の手摺が腐蝕して危険なので改修してほしい。
- ・ 各橋のもとに、極力バリアフリーのスロープを整備してほしい。

（3）サインシステムの設置

- ・ サインは、文学などにゆかりのある場所も紹介してほしい。内容に変更が生じたら速やかに更新し、最新情報を維持したい。
- ・ 遊歩道を楽しく歩くために歌碑を設置してほしい。

（4）河道内樹林の適正な管理

- ・ まとまった樹林があってもよいが、休憩場所となる付近の樹林は伐採等の手を入れてほしい。

（5）かわを学べる水辺空間づくり

- ・ 姿かたちの良い樹木が近くにあって休憩できる場所をつくってほしい。

（6）その他

○夕顔瀬橋と旭橋の間の右岸の整備・活用

- ・ 夕顔瀬橋と旭橋の間の右岸にワンドを整備し、川の駅や船着場として安全に利用できるようにしたい。また、駐車場として一時的に活用できるようにしてほしい。
- ・ 地元の人や子どもたちでひまわりやアジサイなどの花を植えて育て、開運橋から材木町まで花壇の景観を連続させたい。

○三川合流地点の展望公園化

- ・ 三川合流地点は、水飲み場やベンチ、トイレ、東屋のある展望公園として整備してはどうか。
- ・ 三川合流地点に架かる歩道橋を整備してほしい。

○PRの推進

- ・ 北上川にサケが遡上し産卵することをもっとPRしたい。
- ・ 盛岡駅前のサインを活用し、開運橋や花壇、北上川、岩手山をもっとPRしたい。

○開運橋花壇の土留整備

- ・ 開運橋花壇は斜面になっており、土の流出が激しく芝桜がだめになってしまったため、土留を整備してほしい。

○水辺の遊歩道の夜間活用

- ・ 水辺の遊歩道は、照明を工夫するなどして夜間の活用を考えたい。

○開運橋付近でのイベント開催

- ・ 盛岡駅に近い立地特性を活かして開運橋付近でイベントを増やし、観光振興に結び付けたい。

○観光船の運行

- ・ 観光船を出してはどうか。舟の中で観光ガイドを導入するとよい。



北上川グループ①のグループワークの成果

●北上川グループ②（4班）

(1) 水辺の遊歩道整備

- ・ 北上川右岸河川敷上の既設遊歩道は、幅が狭く曲がりが多いので改善してほしい。
- ・ 北上川と中津川の合流点付近は、遊歩道が凸凹しており、改修することを希望する。
- ・ 旭橋下流に遊歩道が繋がってほしい。(現状はスロープ・階段で接続しており、高低差が大きい。)

(2) まちと川を結ぶアクセス整備

- ・ 北上川右岸側の階段は勾配が急であり、利用しにくい。不來方橋の袂にスロープがあるとよい。

(3) サインシステムの設置

○サインシステム

- ・ 川へ近づくことのできるアクセス経路を示すサインを整備してほしい。
- ・ 音声ガイドシステム(美術館にあるような)を活用できないか。
- ・ 情報板(観光、植物)、携帯で見れる仕組みがあるとよい。
- ・ QRコードで(携帯)俳句、写真、短歌、絵画等を展示してほしい。

○ガイド

- ・ 川の歴史やストーリーを伝えるサインもいいが、案内人(ガイド)がいたらもっといい。
- ・ 文化や歴史空間を案内する仕組みがあるとよい(ボランティアガイド?)。
- ・ ガイドさんが活躍できるように。

(4) 河道内樹林の適正な管理

- ・ 旭橋下流左岸側の新築地グリーンプロット(河畔緑地)前の河岸に柳の木が群生しており、緑地から北上川をみる視界を妨げている。
- ・ 大木はなるべく保存してほしい。ただし枯れ枝は撤去するなどの管理をしてほしい。

(5) かわを学べる水辺空間づくり

- ・北上川には、水に触れられる「場」が無い。
- ・親水公園として「北上川公園」をもう少し整備できないか。

(6) その他

○維持管理について

- ・冬季に遊歩道の除雪をして欲しい。
- ・遊歩道に犬のフンの回収を促す看板が欲しい(特に、冬場の状況がひどい)。
- ・観光客も花育てに参加できる仕組みがあるとよい。

○リスク・危険について

- ・アクセスなど、危険なところをチェックして改善できるとよい。
- ・誤って川に落ちた場合の対応を想定しておくべき！

○生き物について

- ・水生昆虫の調査結果が知りたい。
- ・川辺に、ホタルが産卵できる様な木を植えて欲しい。

○景観について

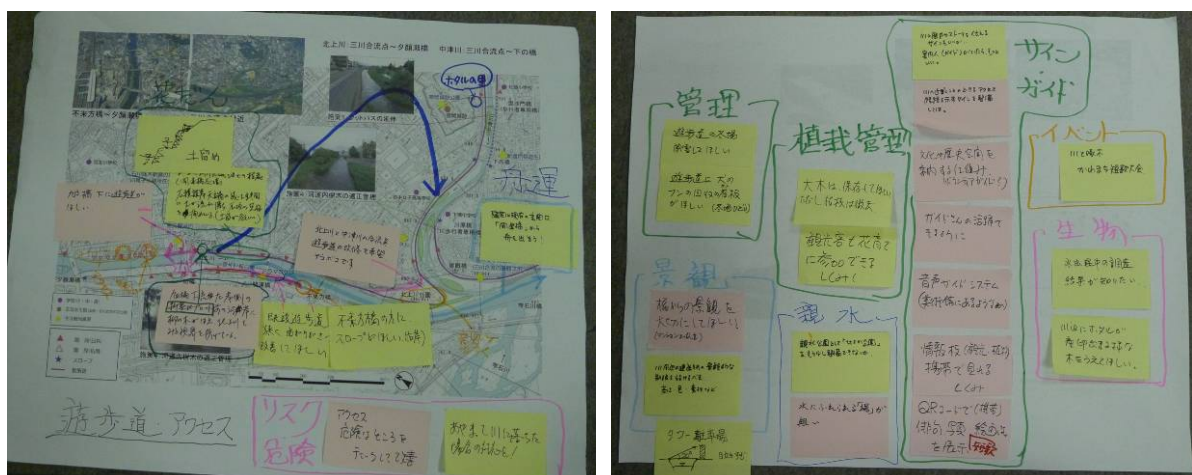
- ・北上川沿川はマンションが乱立している。橋からの景観を大切にしてほしい。
- ・河川沿川の建造物について、高さ・色・素材などの景観的な制限を設けるべき。
- ・タワー駐車場が目立ちすぎである。(建設される際に議論があり、現状の高さでも、景観条例により高さを抑えられた結果である。)

○舟運について

- ・盛岡の現在の玄関口にあたる「開運橋」から舟を出そう！

○イベントについて

- ・川と啄木かわまち短歌大会などがあってもよいのでは。



北上川グループ②のグループワークの成果

2. 発表の主な内容

●中津川グループ①（1・2班）

- ・ 中州を撤去して欲しい。ただし自然保護の方と話しをする必要がある。
- ・ 学習の場として生き物を増やす、子供が遊べる、安全・安心な川づくりが必要
- ・ 富士見橋上流の河川敷を有効活用する。
- ・ 浅岸橋付近のサケ産卵場に近づけるようにする。観光利用にも活用する。
- ・ 遊歩道の除雪をお願いしたい。
- ・ 遊歩道は自転車も走れるようになればよい。
- ・ アクセスは、だいたい整備されている。
- ・ サインは観光施設がわかるように。
- ・ 植生管理のあり方について検討する。
- ・ 川を通じた防災意識向上を望む。
- ・ 地域と観光客や修学旅行生の交流する場として活用すべき。



中津川グループの発表

●北上川グループ①（3班）

- ・ 開運橋花壇は、土の流出が激しく芝桜がダメになった。土留を作るなど対策をお願いしたい。
- ・ 旭橋の下など散策路のつながっていないところの改善を求める。
- ・ 階段・手すりを直してもらいたい。
- ・ ひまわりやあじさいを植えて地元の人が手入れする花壇を連続させたい。
- ・ 川の駅をつかって遊覧船を出してはどうか。
- ・ 北上川公園は三川合流点が展望できる公園にしてもらいたい。
- ・ 北上川もサケが上るのでPRすべき。



北上川グループ①の発表

●北上川グループ②（4班）

- ・ 花壇の整備をして欲しい。
- ・ ハード整備をやりすぎないことも必要。
- ・ 散策路の凸凹など、危ないところをチェック。
- ・ 除雪、イヌのフンなど、市民の管理も必要。
- ・ 景観を守るためのコントロールをきちんと。
- ・ 大木は保存してほしい。
- ・ 観光客も花壇の管理ができる仕組みがあればよい。
- ・ 北上川公園で親水性確保ができないか。
- ・ QRコードや音声案内ガイドなどを活用してほしい。
- ・ 水生昆虫やホタルについて、生息状況の公表や生息の環境づくり。
- ・ 開運橋～鉾屋町の舟運を。
- ・ かわまち短歌大会を開催してみてもは。



北上川グループ②の発表

〈第2回ワークショップ〉

第2回ワークショップでは、「現地確認」をテーマに約2時間現地視察を行い、その後会議室にて約1時間かけて視察結果をとりまとめ、発表を行いました。あいにくの雨にもかかわらず市民から13名に参加いただき、行政関係者6名の計19名が中津川グループと北上川グループに分かれて、話し合いが行われました。

1. 現地調査の概要

中津川グループ、北上川グループに分かれて、約2時間かけて現地を視察しました。第1回ワークショップで議論された内容を中心にチェックポイントを設定し、川の中やその周りを点検してまわりました。これまで交わされてきた具体的な場所を確認して、問題意識を共有できたことも、現地視察ならではの魅力です。



中津川の現地調査の様子



北上川の現地調査の様子

【 中津川のチェックポイント 】

- Check 1 : サケの産卵場所（浅岸橋）
 - ・ 遊歩道の整備の有無について
- Check 2 : 河道内樹林の繁茂（浅岸橋・中津川橋・上の橋上流）
 - ・ 河道内樹林の状況について（景観・樹林の生育環境・治水安全性）
- Check 3 : 山岸地区水辺プラザ（環境学習の場として）
 - ・ 安心して遊べる環境にするには
- Check 4 : 右岸高水敷（富士見上流）
 - ・ 高水敷の利用の方向性について
- Check 5 : カキツバタ園の管理
 - ・ 河道内植生の管理のあり方について（対象は全川）
- Check 6 : 砂州の管理
 - ・ 河道内の中州・砂州の有無について

【 北上川のチェックポイント 】

- Check 1 : 材木町とのアクセス
 - ・ 材木町側にある階段の利用可能性、まち側のアクセス可能性について
- Check 2 : 旭橋上下流のアクセス
 - ・ 旭橋周辺の状況について
- Check 3 : 新築地グリーンプロット（旭橋下流の小規模緑地）
 - ・ 休憩施設・眺望点として活用するには
- Check 4 : 開運橋花壇の管理
 - ・ 花壇の状況（法面の流出、土留めの必要性）について
- Check 5 : サインシステム
 - ・ サイン設置箇所の適否、まちとかわの連携推進の効果について
- Check 6 : 北上川公園の親水化
 - ・ 親水化、散策路延伸の可能性について、安全性の確保について
- Check 7 : 河道内樹木の繁茂
 - ・ 河道内樹林の状況について（景観・樹林の生育環境・治水安全性）

2. グループ討議の主な内容

グループ討議では、現地調査での議題を中心に、様々な意見が交わされました。

●中津川グループ

(1) サケの産卵場所（浅岸橋付近）

- ・ 浅岸橋が狭い。サケの観察場所があればよい。
- ・ 右岸遊歩道の延伸整備が必要。
- ・ 上流中州は、洪水の時危ない。

(2) 河道内樹木の繁茂（中津川橋付近）

- ・ 半分くらい樹木を切っても良いのでは。
- ・ 全部撤去 or 枝払いするか？
- ・ クローバーが無くなった。
- ・ 中津川橋下流左岸のビオトープ化。



中津川グループの様子

(3) 環境学習としての水辺（山賀橋下流付近）

- ・ 全体的に滞筋が固定化し、水深が深いため危険な箇所が多い。
- ・ 橋の前後に浅瀬を作る(遊び場になる)。
- ・ 防災教育(洪水)にも役立てたい。

(4) 右岸高水敷の活用（富士見橋上流右岸）

- ・ グランドを整備してほしい(凸凹しているので整地する)。
- ・ 樹木はいらない。
- ・ ドッグランとしての利用を認めることが必要ではないか(ゾーン、時間、みんなで決める)。

(5) カキツバタ園の管理（上の橋上流）

- ・ 川が深くなって危ない。
- ・ 管理する方々が高齢化している。

(6) 砂州の管理（上の橋上流）

- ・ 中洲の撤去が望ましい。
- ・ カジカの生息地だった(形成する)。

(7) 全区間共通

- ・ 市民が主体となってできることがある。その際、合意形成を自ら実践することが必要である。
- ・ 帯工(横断構造物)によって川幅が広がり、瀬を形成する。
- ・ 遊歩道をつなげて歩けるように。遊歩道にベンチが必要。
- ・ 洪水時など連絡先を教えてください。

●北上川グループ

(1) 材木町とのアクセス

- ・ 階段が急で、手摺がなく危険である。
- ・ 個人の階段でアクセスする場所がない。
- ・ 枯木の対処をしてほしい(伐採)。

(2) 旭橋上下流のアクセス

- ・ 簡易通路でも良いのでアクセスを良くしてほしい。

(3) 新築地グリーンプロット

- ・ 緑地からの眺めを確保するため、柳の木を伐採してほしい。
- ・ 柳の木は残してほしい。
- ・ 車庫が目立ち、見苦しい。



北上川グループの様子

(4) 開運橋花壇の管理

- ・ 法面の土が流出し、石積みの芝桜が被害を受けている。偽木などにより土留めしてほしい。
- ・ 階段の手すりの老朽化。
- ・ 開運橋花壇は盛岡の表玄関。
- ・ 歩道に水が溜まりやすい(排水問題)。

(5) サインシステム

- ・ 現地点、サイン周辺の情報(材木町、ビュースポット)を示してほしい。
- ・ 川への降り口がわかりにくい。
- ・ QRコードで情報提供してはどうか。
- ・ 歩いてもらうしかけが必要。exe.スタンプラリーや歌碑。

(6) 北上川公園の親水化

- ・ 路面がでこぼこで、補修が必要。
- ・ 冬季(少なくとも春前に)除雪をしてほしい。
- ・ 三川合流地点を示す案内サイン。

(7) 河道内樹木の繁茂

- ・ 水際に樹木が繁茂し、川が見えない。

(8) その他

- ・ 寄石を使って淀み、溜まりの空間を作る。また、その空間を船着場として利用する。
- ・ 臨時駐車場(毎週土曜日、与市)
- ・ 御番所があり、盛岡城下町への玄関口だった場所である。樹木は伐採し、中洲は残す必要がある。
- ・ 開運橋下流右岸の花壇に雑草が繁茂→管理する組織が必要。

〈第3回ワークショップ〉

1. グループ討議の主な内容

第3回ワークショップでは、これまでの議論や現地視察を踏まえ、事務局が用意した検討案をもとに、より具体的なアイデアについて話し合いました。市民から16名に参加いただき、行政関係者6名の計22名が中津川グループと北上川グループに分かれて、活発な話し合いが行われました。

●中津川グループ

検討案①：中州・樹木の撤去

- ・ 浅岸橋上流の中州を撤去しても鮭の産卵場所には影響がないだろう。現在も上流でも産卵している。
- ・ 過去の状況を見ると、中州を撤去しても元に戻るのではないかと。樹木管理でよいのではないかと。
- ・ 中津川橋上流樹林は全て撤去しない方がよい。景観、生物生息に役立つ。川に近い樹林は切る。
- ・ 中津川橋下流左岸のビオトープ化。水路が残っており、その保全が必要である。
- ・ 上の橋上流の中州は、橋の中央に流れるように上の橋下流まで撤去したほうがよい。
- ・ 中州の玉石を川に戻した方がよい。川底を水平に、川幅を広げ浅瀬をつくる。

検討案②：高水敷の利用

- ・ グランド整備はよい。ある程度利用者も見込まれるのではないかと。具体的な検討を進めるべきである。
- ・ 現状の水芭蕉は維持、保全する。
- ・ 樹木はある程度残したほうがよい。東大橋下流右岸の桜並木は残すべき。

検討案③：遊歩道の延伸

- ・ サインは、北上川と連携することが望ましい。階段等の昇降場所に必要である。
- ・ 中津川の歌碑(25もある)がわかるような案内板を設ける。
- ・ ベンチ(石)を置いてほしい。
- ・ 水溜りになりやすく、その配慮が必要である。

検討案③-1：遊歩道の延伸(右岸)

- ・ 遊歩道の延伸・整備は賛成。延伸区間の終点(中津川橋上流)の階段を整備。
- ・ 中津川橋上流から浅岸橋までの区間も整備することが望ましい。

検討案③-2：遊歩道の延伸(左岸)

- ・ 山賀橋から浅岸橋に至る左岸遊歩道を新設・整備する(市道に歩道がない)。

その他(全体を通して)

- ・ 網取ダムは対流量調節に十分機能しているか。台風15号時の洪水調整の状況を教えてもらいたい。



中津川グループの様子



中津川グループの提案

- ・治水計画上、中津川の河積(横断面)の過不足の場所はあるのか。
- ・管理する人・体制が高齢化・縮小している。

●北上川グループ

検討案①-1：材木町とのアクセス

- ・材木町裏へのアクセスは場所を決めて(全部は無理なので)整備して欲しい。
- ・商店街駐車場を川とまちのアクセスに活用する。
- ・私有地がアクセス道路になるので、まず地元の方の賛意が前提条件になる(回遊性)。

検討案①-2：新築地グリーンプロット

- ・グリーンプロット前の樹木、川の景色が見える程度の伐採は必要。
- ・北上川の流路を変えた新築地を示せないか。

検討案①-3：臨時駐車場としての高水敷利用

- ・対岸の駐車場はぜひ進めて欲しい。

【その他高水敷利用について】

- ・乗降時にカヌーを止めるのが大変
- ・旭橋上流に船をつけられる湾処(ワンド)を整備してはどうか。→明治橋下流、新山河岸との連携。

検討案①-4：旭橋上下流のアクセス

- ・旭橋下の連絡道を可動式でもよいのでつなげてほしい。

検討案②：開運橋花壇

- ・案 1:現在遊歩道横も擬木で施工しており、増水時にも効果を発揮しているので構造は同じ物の方が良い。案 2 に比べてメンテが少ない。案 3 の上部管理スペースはスペース上無理と思う。
- ・将来的なメンテ、下段との調和、通路スペースに配慮する必要がある。

検討案③：サインシステム

- ・鉈屋町でもサインを検討中なので統一感あるものを。
- ・アクセスに「通れますよ」というサインがあればよい。

検討案④：樹木の撤去

- ・夕顔瀬橋の中州は明治橋下流の中州と同様文化財なので残しつつ、樹木は撤去してもよい。
- ・三川合流部の樹木、オオルリの渡りに必要である。多少残してほしい。

北上川公園

- ・東屋のトイレや水飲み場、ベンチを設置してほしい。

雫石川への回遊性向上

- ・北上川不來方橋下流の右岸側にも遊歩道がほしい。
- ・雫石川への遊歩道を設置してほしい。



北上川グループの様子



北上川グループの提案

2. 発表内容

●北上川グループ

材木町の裏は、遊歩道のようなことがなかなかなくて、惜しいことになっているのではないかと話があります。ただ、これは民間の方々の土地でもありますので、いろいろな方の協力が必要ではないかなと言うことです。

新築地ですけども、旧北上川がここから分かれて大通りを通って岩手女子校の方に流れていた河道跡です。これを紹介するような碑などは一切無い状態ですが、なんとか利用できないかなと。



北上川グループの発表

具体的には碑やサインでしょうが、もう少し違う方法でも示せたらいいなという意見がありました。

材木町対岸の高水敷前が、川幅が狭くなって非常に流れが速い。昔、ここにも船が来ていたという話があって、ここの高水敷を少し掘り込むような形にして遊歩道として船が着けるような場所があったら、地域興しの点からもいい場所になるのではないかと。実際にカヌーをやっている人もここから乗り降りしている人がいるようですけど、非常に危ない。下流の明治橋の方までいくような、そういう流れをつくってみてはどうかという話がありました。

それと、夕顔瀬橋のちょうど上流の部分に中州があるのですが、中州は渡部先生の方からもお話があったように、蟹とかを捕って暮らしているようなそういう生活の景観みたいなものも昔はあったということで、中州は残した方がいいのではないかと。樹木に関してはすぐ生えてきて、これは切るのも仕方ないのではないかなということが意見としてありました。

開運橋の花壇ですけど、案にある管理をしやすい花壇にするべきではないかということで、これは擬木とか木柵とかいろいろな意見が出たのですが、まずは今のタイヤをもう少し管理を良くするような、擁壁みたいなもので。あとは基本は木でもいいのではないかなと。ただ一律の物ではなくて、その場所にあったものという話がありました。

遊歩道ですけど、この不来方橋から北上川公園までの右岸側の方にも遊歩道が欲しいと言う意見、あとはここから北上川公園に渡れるような仕組みも欲しいなと言う意見がありました。それとあとは可能であれば、昔、雫石川の方に抜ける道路とかもあったかと思うのですが、盛岡駅の西口に川沿いを伝っていける遊歩道とかも将来的にはあった方がいいのではないかなと言うことです。

サインに関しては、いろいろ立っていていいのですが、統一感がなくなっているということで、例えば南部鉄器のサインを意匠として用いるとか、そういう仕組みがあってもいいのではないかと。これは僕の意見ですけど、サインに電気を通すことが出来ると思うので、Wifiのスポットとして使って、そうすると人も集まる場所になるのではないかなと考えました。

北上川公園について、水没しやすい所があるのでそこは何とかして頂きたいというようなことです。トイレ、水飲み場、ベンチとかが欲しいということです。この合流地点に残っている樹木がオオルリという渡り鳥の目印になっているという木だそうなので、これは大事に残して欲しいということが意見としてありました。あとは材木町とのアクセス部が最初の議論で時間をたくさん取ってお話をしました。以上です。

●中津川グループ

大体、ポイントとしては3、4ということで、中州は、草、ヨシなどが生えているようなす州ができています。あるいは樹木、柳なんかの樹木が生えている。これをどうしようかという話をしました。この中州についてもやはり治水的な問題がまず考えられる場所なので、実際にこの間の大水でもかなり護岸、石垣なんかに危険が及ぶ位になっている。そういったことを背景に治水を優先に考えつつ、一応優先順位をつけながらチェックしていくという方法で考えるべきではないかという意見でした。

中州、特に樹木、かなり大きくなっている柳なんかもありますけれども、これをどうしようかという話で、これについては全部撤去してしまうということも考えられなくないですけども、景観ですとか自然、そういったことへ配慮する意味でもやはり残すべき。ただ、治水で実際にこのあいだの大水で倒れた木なんかもありますので、そういったことも考えながら、実際に判断しながらきれいにしていくということです。私の意見ですけど、中津川橋の下流側のあたりに少し広がっている遊休地があって、そこが増水した時に少し掘れているような場所があるんですね。増水した時に掘れている場所であれば、多少少し広く掘ることによって、その場所を水が流れないような場所として、ワンド的な感じでできるのではないかということで、流れがずっと続いている中津川の中にそういう水が流れない場所を確保して、魚の繁殖、そういう場所に使ったりできるのかなど。

あとは浅瀬ですね、今中津川はどちらかという掘れて深い所がたくさんあるような感じになっていますけれども、浅瀬を作ることによって、子供が遊べるような川に戻そうと。場所を決めてこういった浅瀬を作っていくというような形に積極的に川に入ってこられるような川にするということが出ました。

高水敷利用、これはさっきのワンドの話も入るかもしれませんが、東大橋の下流側とかこのあたりを広く草地になっているのですが、ここについてはグラウンドにするのか、あるいはドッグランとして、PRしながら使ってもらおうというような形にすれば、もう少し有効に使えるのではないかという話がでました。少し桜があったりという話が出まして、こういうのは増やしていくべきですし、必要に応じてもう少し広げたりできないのかなという意見も出ました。高水敷、ドッグランとかグラウンドとか、そういった形、イメージで使うにしても、今ある樹木、川縁にいくつか柳が残っていたりしますが、それは多少残していっぺんに切るのではなくて多少残した方がいいということです。

遊歩道では、切れている所として、左岸側から行くと、山賀橋の下流側でなくなるんですね。道をずっと行くしかない状況ですけど、ここもずっと中津川橋に向かうように遊歩道を整備する。更に右岸側については中津川橋の下流あたりで切れているんですけど、これはずっと延ばして浅岸橋まで回遊できるように、やはりこうぐるっと回れる所に意義がある。行って戻ってというのはつまら



中津川グループの発表

ない、ぐるっと回れるような遊歩道を是非整備したいという話がありました。ただ、遊歩道を延ばすというだけでは歩いて疲れちゃうということで、座れる所、石などで座れるような場所を作ってあげるとか、あるいは中津川は歌碑があったりしますし、そういったものを案内するようなサインですね、あとはトイレとかそういった話も出ました。路面の話もありまして、多少はいいのでしょうけど、しばらくすると歩道の所あたりが少し下がって、雨が降ると水たまりになって歩けないと言うのができてしまうということで、そういったのも、これは作るというより維持管理の話になってくると思うのですが、管理の中で上手く水たまりを除いていくというような事も考えなければいけないという意見でした。

〈第4回ワークショップ〉

1. グループ討議の主な内容

第4回ワークショップでは、第3回の議論を踏まえて、修正した検討案について具体的に話し合い、市民からの提案書について決定していきました。市民から13名に参加いただき、行政関係者8名の計21名が中津川グループと北上川グループに分かれて、活発な話し合いが行われました。

●中津川グループ

検討案①-1：遊歩道の延伸(右岸)

- ・中津川橋までの延伸は必要である。
- ・中津川橋より上流浅岸橋までは、今後の検討区間として整備することを望む。

検討案①-2：遊歩道の延伸(左岸)

- ・山賀橋上流区間(600m)の延伸は必要である。
- ・中津川橋上流から浅岸橋までは、今後の検討区間として整備することを望む。
- ・毘沙門橋下流においても今後の検討区間として整備を望むが、中州の撤去と合わせて検討が必要である。

検討案②：高水敷の利用

- ・駐車場がなく、利用者が近所の人に限定される。
- ・利用方法として、バーベキュー、ピオトープ、親水公園、環境教育利用、桜並木などが考えられる。
- ・学校との連携、タイアップについて記述してはどうか。

検討案⑤：中州・樹木の撤去

- ・中州を撤去する際、玉石を川原に戻すことが必要。
- ・勿忘草、中津川の特徴的な植物であり、その維持・保全について明記する。

検討案⑥：サインシステム

- ・サインの整備は回遊性を補完する上で良いことである。
- ・自然環境を説明するサインもあるとよい。



中津川グループの様子



中津川グループの提案

●北上川グループ

検討案③-1：材木町とのアクセス

- ・階段の歴史を説明するものがあるとよい。
- ・材木町商店街からは川への降口がわからない。
- ・商店街駐車場には、川への降口の目印として木のゲートはあるが、サインの設置があればよい。

検討案③-3：臨時駐車場としての高水敷利用

- ・実現の際は、高水敷の臨時駐車場について、時間を決めて管理する必要がある(土曜の14～19時とか)。

検討案③-4：旭橋上下流のアクセス

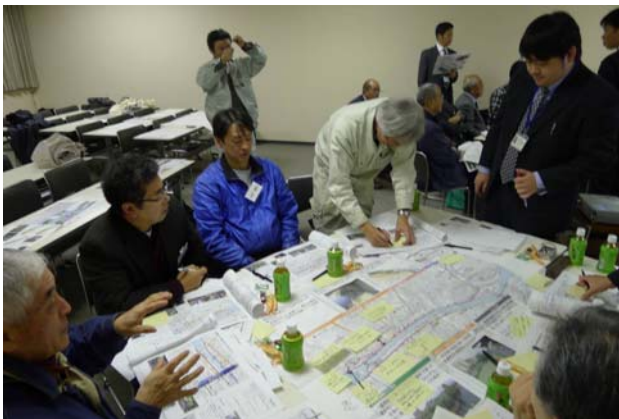
- ・現状ではアップダウンが多いので、よりスムーズに移動できれば良い。
- ・検討案④：開運橋花壇
- ・周辺住民への働きかけなどの活動の仕組みづくりが必要。
- ・花壇の維持補修には「シバザクラ」を守る目的がある。

検討案⑤：樹木の撤去

- ・材木町裏の石垣の枯木を対処する必要がある。
- ・樹木は小さいうちに切ってしまった方がよい。

検討案⑥：サインシステム

- ・川沿いから一本町に入った通りにもサインを設置すれば、上手く誘導できる。
- ・どこまで何分、何kmなどを示し、歩きたい・歩きやすいように(ウォーキングによい)。



北上川グループの様子



北上川グループの提案

●市民からの提案書について

次回とりまとめる市民からの提案書について議論しました。個別の提案について、協働の維持管理、安全管理についての提案に対して、「学校との連携、タイアップについて記述してはどうか。」河道内樹木の適正な管理についての提案に対して、「勿忘草やカキツバタを追記してほしい。」といった意見がありました。

2. 発表内容

●中津川グループ

遊歩道の延伸は実施すべきという意見です。ただ、雨の時なんかは歩きにくくなるのがやはりどうしてもあるということなので、延ばすのもいいんだけど、今ある遊歩道をもう少しちゃんと使いやすいうように整備するというのも必要じゃないですかという指摘がありました。下の橋下流左岸側が遊歩道がないんですね。ここについては、やはり中州も随分発達してしまっていて、それが樹林化して問題があるだろうと言う話も前から出ていました。



中津川グループの発表

ですので、このへんは中州を撤去するのに特にこの下の橋下流側なんていうのは、左岸側がコンクリートで水が流れていってしまうような形になっていますので、そっちの方に中州の土砂を寄せて、少しコンクリートの隠す、そういったことも含めて今後の検討区間という形にしております。

河川敷の整備という所ですね、東大橋下流側右岸です。富士見橋に至るまでの間、かなり広がっている所があるわけですけど、親水公園的に整備したいんじゃないか、桜があるのでこれをもう少し延伸して、桜を楽しめるような場所にしたい。あとはいろいろな修学旅行生とか近所の学校の小学生、中学生も来ますけれども、そういう子供達にもっと学べるような場所ですね、その延長でいけば生き物を学ぶっていう意味でビオトープの整備とか、親水公園も階段作ってとかっていう親水公園じゃなくてもっと自然に親しめる、自然と直接親しめるっていう本当の意味での親水公園だね、そういったものをこのへんに整備したらいいんじゃないかと。

勿忘草とかあるいは水芭蕉とか、カキツバタも対岸に多いですけどありますので、そういったものを上手く活かしながらそれを見せる、サインに話にもつながってきますけど、上手く理解してもらえるようなサインシステムも絡めて、自然を上手く理解してもらおうような場所にしたい。

中州をただ取り去るというだけではなくて、中州の中には玉石がゴロゴロ入っていますので、それは川の中でまた魚の生息空間として生きてきますので、これは全部撤去するのではなくて、玉石は少し戻すとかがっていうような配慮を是非して下さいということです。

サインは賛成だけど、もっと中津川の自然をもっとアピールできるようなサインにして下さいという意見です。これは学校の連携と言うことで、川と連携する、川の環境教育という意味で学校ともっとタイアップしてやったらどうだろうという所です。あとは中津川の歴史がもう少し理解できるように、サインの方とも関わってきますけど、橋とか護岸の歴史がわかるような仕組みが必要ではないか。あとはこれも先ほどの話ですけど、勿忘草などキーになるような植物もあるので、この辺をわかりやすく説明して下さいという内容でした。

●北上川グループ

材木町の裏の低水護岸に降りる階段で唯一通れるのは、材木町の駐車場からで、殆どの階段は個人の住宅を通らなければならない。そのために、材木町の与一に来て、川に降りたいなと思ってもどこから降りていいかわからないことがある。また、現状は夕顔瀬橋上流からも降りられるが、利用者はそこさえわからないということを考えると、サインなどを作っただけならばなということがあります。



北上川グループの発表

材木町の所の両側の低水護岸について、堰のよう

にずっとただ流れて、前にもやはり落ちた方がいらして護岸につかまる所がない。ですから、川の両側に石を置いて頂いて、多少の淀みを作っただけならばなということがあります。

あと材木町対岸の臨時駐車場について、それは私達材木町で与市をやっている、駐車場にしたいと思っても駐車場がない、周辺のスーパーマーケットさんに置いて怒られている方々がいる。材木町対岸の駐車場スペースにできるような所があるので、今までも何回か行政にお願いしたけど殆ど駄目でした。今回ここで議題に取り上げてはいたのですが、当然雨の日は駄目でしょうし、工事の時もやらないでしょうし、ちゃんとした管理のもとに臨時駐車場として使わせて頂ければやりたいという風に私達は思っていました。

材木町裏の石垣に木が生えると石垣を壊してしまいますので、やはり伐採をしなければまずいということがあります。

材木町からのきれいな開運橋の所の花壇までつながっているようには全く見えないので、あまり階段等を使わないでまっすぐ行ける方法があればと考えております。

せっかく駅から降りてきて花壇があるわけですから、せっかくの花壇が今壊れつつあるということで、新たにきちっとした土留めをして欲しいという提案ですね。

合流点があるんですけど、ここに若い人が遊べるようなものとか、今歩道も壊れていますので、人を寄せてこの低水護岸を川辺に歩いてみたり、新たな人を呼び込むために何かできないのかなど。例えば、スケートボードとかそういう様々な遊びができるような場所がコンクリートで作っただけのもので、迷惑にならない程度であればいいなという風な気はします。

盛岡のせっかくいい町、川がすごくきれいな町で、人をいかにして川端に降ろしてくるかというのが今回の話ではと思う。材木町の所にもサケが産卵しているが、材木町の人でさえ知らない。

例えば材木町から浅岸橋まで歩いて何分で歩けると何カロリー消費したとかですね、ウォーキングにも役に立つサインを。これまでのサインはもう聞き飽きており、地元じゃ見ないですよ。それよりは川を楽しく歩けるとか、観光客も歩くかも知れないけど、地元の人が知らないと言うこと自体がおかしいので、地元の人が歩きやすいような町を作っただけならばなと思います。

先ほどトイレを作ったらどうかという話がありましたが、いろいろな所にコンビニエンスストアはあるし、行政機関はあるし、トイレはある所はあるので、どこに何分で行けるという表示があればいいんです。別に作る必要はないと私は思うんです。よろしくお願いします。

〈第5回ワークショップ〉

1. 討議の主な内容

第5回ワークショップでは、これまでの4回の議論を元にして、検討された市民からの提案書(案)について確認しました。市民から9名に参加いただき、行政関係者7名を加え計16名により、内容を1つ1つ確認していきました。

出された意見は、事務局(国・盛岡市)で持ち帰り、とりまとめることとしました。



討議の様子

● 討議内容

提案2-④：かわを学べる水辺空間づくり

- ・ 洪水時の防災教育に限らず、広く「安全教育」を図っていく必要がある。

提案2-⑦：河道内の植栽・管理体制づくり

- ・ 中津川を象徴する植物として、勿忘草、ミズバショウに加え、カキツバタも記述してほしい。
- ・ カキツバタは、市の花であり、観光名所ともなっていることから、市民の協力体制が必要であることについて提言したい。

提案3-⑧：かわ・まちの歴史を活かした水辺づくり

- ・ 歴史のある石垣を損傷するおそれがある樹木を根絶してほしい。
- ・ 夕顔瀬橋上流の樹木撤去について、生物の生育・生息の場について記述する必要がないのではないか。

提案4-⑨：水辺の遊歩道の整備

- ・ 春先の雪解け時は、遊歩道の除雪について考える必要がある。

その他提案：川への排雪について

- ・ 道路の通行環境を維持していく上で続けていく必要がある。
- ・ 雪にゴミ等が混入し川へ捨てられないよう、排雪の仕方について啓蒙していく必要がある。